

回覧

桜地区防災ニュース「きらら」

平成31年 3月号
発行責任者
桜地区自主防災協議会
桜地区連合自治会



「津波てんでんこ」

東日本大震災が発生してから8年が経過し、3月11日には避難者がいる各地で追悼式が催されました。自然の驚愕と悲しみが増してきました。この震災で「津波てんでんこ」が教訓として広まっていますが、本当の意味をご存知でしょうか。

「津波てんでんこ」は、沿岸部に近い場所で地震発生を知った際には、津波発生を前提に高い場所へひとり一人が避難することです。行政が避難勧告等を発信する前に自身が弱者を助けつつ高い場所へ逃げることです。家族知人等も各々独自で高い場所に避難するのです。家族のお互いが信頼の中で自分自身の命を守り避難することが「津波てんでんこ」なのです。お互いが災害伝言ダイヤルや携帯電話の伝言板等を活用し、無事を確認することです。

桜地区にお住まいの方々が働く場所や学校が沿岸部に近い場所にある場合は、我々も自分自身はもとより家族の命を守り、生き抜くために「津波てんでんこ」を実践することが必要だと感じます。さらに、自分自身がいる場所（学校、職場、商店等）の海拔高さを知ることがも大事です。学校等の付近の国道・県道の震柱に海拔高さが表示されています。



ハザードマップに津波被害の想定高さが表示されています。

この高さ（標示）はあくまで津波の想定（計算上の）高さです。災害発生時の対応（避難）について家族で話し合い実践することが大事です。

- また、鞆の中に携帯電話の充電器
・ 飴・チョコレート・手ぬぐい
・ 硬貨等があればいいですね。

裏面につづく

回覧								

防災ニュース「きらら」は単独で回覧をお願いします。

防災・減災に向けて「備え」「行動」しよう

平成25年度の「防災に関する県民意識調査」では、東日本大震災の発生を受けて高まった防災への関心が、時間の経過とともに年々薄れつつあるとの結果が出ています。

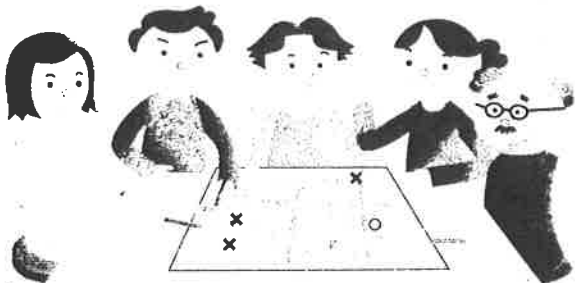
災害発生時の被害を最小限に食い止めるため、「三重県防災対策推進条例」の基本理念である自助・共助・公助のもと、日常から「備え」「行動する」ことで、災害に強い安心安全な三重県を築いていきましょう。



自主防災活動に参加しよう

地域で行う日常の活動

- タウンウォッチングをして、地域の危険箇所を知る。
- 災害図上訓練をして、災害が発生した時の対応を地図上で考える。
- 災害時要援護者(体が不自由な方、高齢者、乳幼児など)の支援方法を決めておく。
- 車の使い方(乗り合わせなど)を決めておく。
- 津波避難計画や避難所運営マニュアルを作成し、災害に備えた実践的な訓練を継続的に実施する。



◆Myまっぼらん
地域で協力して、一人ひとりの津波避難計画であるMyまっぼらんを作成しよう!

災害時の活動

- 初期消火や救出援護活動を行う。
- 災害時要援護者の安否確認・避難誘導を行う。
- 避難所の運営(避難所生活のルールづくり、物資の配分、炊き出し、清掃など)を、役割分担をして積極的に行う。
- 避難所では、女性に配慮し、高齢者や障がい者などへのサポートを心掛ける。



三重県「防災啓発リーフレット」より